

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 4月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.194 2023.4

紹介内容 (3/1~3/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 気仙沼農改：資材価格高騰等に係る技術対策研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：JA 青色申告会 PC 簿記研修会が開催されました
 - 石巻農改：令和4年度第2回石巻地域普及活動会を開催しました
 - 気仙沼農改：気仙沼農業改良普及センター第2回普及活動検討会を開催しました
 - 仙台農改：第7回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
 - 石巻農改：石巻地区の農業士が宮城県漁業士と交流しました
 - 大崎農改：やくらい土産センターでさつまいも栽培講習会を開催しました
 - 石巻農改：令和4年度農山漁村女性活躍表彰 地域子育て支援部門で 東松島市 石森さと子氏が優秀賞を受賞！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 亘理農改：「女性農業者ステップアップ講座」を開催しました
 - 登米農改：「令和4年度登米市農村教育青年会議」が開催されました
 - 気仙沼農改：女性農業者研修会を開催しました
 - 大河原農改：農事組合法人さくらファームの設立総会が開催されました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブ員が表敬訪問を行いました
 - 登米農改：農業女子会～夢を語り合ってみませんか？～を開催しました！
 - 美里農改：令和4年度美里4Hクラブ 第2回先進地視察研修及び研修会が開催されました
 - 美里農改：令和4年度第2回美里地区農業士会研修会を開催しました
 - 仙台農改：令和4年度第2回女性農業者活躍支援研修会を開催しました
 - 栗原農改：令和5年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました
 - 登米農改：「第61回全国青年農業者会議」が開催されました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会研修会が開催されました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 仙台農改：令和5年度産麦の現地検討会が開催されました
 - 気仙沼農改：水稲乾田直はに関する実演会を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 栗原農改：かぼちゃの栽培講習会が開催されました
 - 栗原農改：ズッキーニ栽培講習会が開催されました
 - 大崎農改：半促成トマト部会現地検討会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- ④ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 仙 台農改：野菜づくり講習会が開催されました
 - 登 米農改：登米ぼてと組合の種芋消毒が行われました！
 - 大河原農改：JA 仙南いちご部会の目揃い会が開催されました
 - 栗 原農改：令和4年度くりはらスプレーマム研究会通常総会開催されました！
 - 大 崎農改：土づくり研修会を開催しました
 - 登 米農改：きゅうりの環境制御技術及び天敵製剤勉強会を行いました
 - 登 米農改：JA みやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました
 - 亘 理農改：令和5年2月に生産者と実需者の連携強化のための花き産地交流会を開催しました
 - 登 米農改：JA みやぎ登米花卉部会トルコギキョウ専門部の全体会及び実績検討会が開催されました
 - 美 里農改：ばれいしょほ場排水性改善施工実演会を開催しました
 - 登 米農改：令和4年度登米地域園芸特産振興研修会を開催しました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 栗 原農改：大豆種子の生産物審査が終了しました
 - 石 巻農改：モミタス実演会に参加しました
 - 美 里農改：涌谷町で大豆栽培総合実績検討会が開催されました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 石 巻農改：麦の現地検討会が石巻各地で開催されました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 石 巻農改：「令和4年度石巻・登米地域鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました
 - 石 巻農改：パプリカの葉で陸上飼育したウニの試食会が行われました！
 - 亘 理農改：2023年伊達なわたりまるごとフェアが開催されました
 - 大 崎農改：大崎農業士会第2回研修会を開催しました
 - 大 崎農改：やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会（売り場環境改善編）を開催しました
 - 大 崎農改：加美町の青年農業者と町の特産品開発に向けた意見交換を行いました
 - 気仙沼農改：令和5年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会及び花寿司づくり講習会が開催されました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 栗 原農改：志波姫環境保全米栽培講習会が開催されました
 - 大 崎農改：環境にやさしく省力的な稲作の実証試験検討会が開催されました
- ③ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 大河原農改：集落営農の法人化に向けた現地視察研修会の開催

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○資材価格高騰等に係る技術対策研修会が開催されました 令和5年3月6日 気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市役所ワン・テン庁舎を会場に、気仙沼市認定農業者連絡会の研修会が2月14日に開催され、9名の会員が参加しました。

今回は「資材価格高騰等に係る技術対策」をテーマに、普及センターから対策について説明を行いました。県が公開する「資材価格高騰等に係る技術対策（ver.2）」に基づいて、費用対効果を考慮した取り組みの考え方を紹介すると、出席者からは肥料効率を高める施肥法や低コストで環境にも配慮した土壌還元消毒の活用の可否など、積極的な質問があがりました。また、県の支援の在り方について寄せられた御意見については、改善に向け取り入れていきたいと思っております。

今後、農業の持続可能性を実現していくため「みどりの食料システム戦略」への取組がますます強化され、有機農業の推進や化学資材の使用低減など、新たな取り組みも進むことが予想されます。御不明な点は、お気軽に普及センターまでお問い合わせください。

○OJA 青色申告会 PC 簿記研修会が開催されました 令和5年3月6日 気仙沼農業改良普及センター



JA 新みやぎ南三陸統括営農センターを会場に、JA 青色申告会のパソコン簿記研修会が開催されました。研修会は昨年12月20日から2月21日にかけて計5回開催され、延べ19名の会員が参加しました。

研修会では、パソコン簿記ソフトの入力や参考書を基にした一般的な仕訳の方法について普及センタ

ーから解説を行いました。参加者はソフトの使い方に苦戦するところもありましたが、皆さん普段から記録をしっかりとっており、円滑に記帳が進みました。

青色申告を行うことで、最大65万円の税額控除が受けられたり、収入保険に加入できたりするなどの特典があるだけでなく、部門ごとに支出や収入を管理することで、経営改善に向けた見直しもしやすくなります。

様々な利点がある青色申告に取り組んでみませんか。

○令和4年度第2回石巻地域普及活動会を開催しました 令和5年3月6日 石巻農業改良普及センター



石巻地域の普及指導計画等の効率的かつ効果的な推進を図るため、農業者や市、JA等の外部検討委員9人を招き、「令和4年度第2回石巻地域普及活動検討会」を2月3日に石巻合庁で開催しました。

総合検討では、プロジェクト4課題（①管内全体のいちごの産出額向上、②3法人を対象とした園芸法人の育成強化、③アスパラガス採りつきり栽培の導入・定着、④土地利用型3法人を対象とした長面地域の持続的な水田農業の実現）について、1年間の活動と成果について報告しました。委員の方々からは、特に今年度完了するアスパラの課題について、アスパラ栽培について知ってもらい良いきっかけとなった、継続した支援を引き続き希望したいという御意見をいただきました。

令和5年度からの新規プロジェクト課題（小ねぎ産地における次世代の人材育成）については、若手生産者の栽培技術だけではなく、異業種との交流活動により、これまでにない新しい動きを期待したいとの感想をいただきました。

今回の検討会で各委員よりいただきました御意見等を参考にし、今後の普及活動を計画的かつ効率的に展開していきます。

○気仙沼農業改良普及センター第2回普及活動検討会を開催しました 令和5年3月8日 気仙沼農業改良普及センター

気仙沼農業改良普及センターでは、令和5年2月6日(月)に第2回普及活動検討会を開催しました。検討会には、管内の指導農業士や市町等の関係機関、マスコミ関係者など委員6人に出席していただき、



普及センターで重点的に取り組んでいるプロジェクト課題の活動状況と令和5年度普及指導計画案について検討していただきました。

プロジェクト課題については、「市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展」、「いちごの栽培技術レベルアップによる収量向上」、「持続的な地域営農の実現に向けた担い手の経営安定」の3課題の活動状況と成果を報告し、委員からは収益面、労働面等からの質問や活動方法についての助言、評価をいただきました。また、令和5年度普及指導計画案については、計画の概要と令和5年度に新たに立ち上げるプロジェクト課題について説明しました。

今回の普及活動検討会でいただいた助言、意見等については所内でとりまとめを行い、これからの普及活動に活かしてまいります。

○第7回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました 令和5年3月23日 仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、令和4年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、「水稲乾田直播栽培勉強会」を開催してきました。第7回目となった今回は、「春先のほ場準備～種子の準備」をテーマに開催し、管内の農業者やJA等関係者含めて17名が参加しました。

今回の勉強会では、普及センターから、春先のほ場準備と種子の準備について説明をした後、土質の異なるほ場2か所を回り、現地検討を行いました。勉強会参加者の中には、令和5年から乾田直播栽培を始める方も多く、ほ場に合わせた機械の設定や作業の流れの確認等、具体的な質問が飛び交いました。作業が本格的に始まったタイミングでの意見交換だったため、実際に作業を始めてから出てきた疑問を解決する場となり、今後の作業の参考になったようでした。

普及センターでは、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

○石巻地区の農業士が宮城県漁業士と交流しました 令和5年3月23日 石巻農業改良普及センター



令和5年2月28日に石巻農業士会は宮城県漁業士会中部支部の漁業士の方々と交流を行いました。地区レベルでの漁業士との交流は初めてでしたが、農業士は8人、漁業士は13人の参加がありました。

今回は、一次産業に共通する「石巻地域における若者の人材確保」をテーマとし、漁業における担い手確保に実績のある一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン島本幸奈氏の講演の後、漁業と農業における担い手確保の現状と課題について意見交換を行いました。

農業、漁業いずれも、震災以降は経営体数が減少していますが、漁業においては、20代、30代の就業者数が増加しています。その要因として自治体と連携した漁業就業希望者の受入や水産業との連携による漁村の活性化、大学生向けインターン事業の展開など、農業場面でも学ぶべきことがたくさんありました。

一方で、経営の法人化については、農業の方が法人化は進んでおり、家族経営から脱却できない漁業としては、参考にすべき点が多いとの意見がありました。双方の取組をさらに知りたい、販売活動も一緒にできないかといった意見もあり、引き続き交流を望む声もありました。

今回、農業士、漁業士の皆さんからいただきました御意見等を参考に、交流活動を支援していく予定です。

○やくらい土産センターでさつまいも栽培講習会を開催しました 令和5年3月29日 大崎農業改良普及センター



令和5年3月24日に、やくらい土産センターでさつまいもの栽培講習会が開催され、13人の生産者が参加しました。普及センターからは、育苗から貯蔵までの一連の栽培技術について説明しました。講習会

の中では、生産者同士で疑問を投げ掛け合い、議論している様子も見られました。生産者からは、線虫の防除方法や無化学肥料栽培における留意点など多くの質問が寄せられ、充実した講習会となりました。

当普及センターでは、今後もやくらい土産センターの活性化に向けた支援を行ってまいります。

○令和4年度 農山漁村女性活躍表彰 地域子育て支援部門で 東松島市 石森さと子氏が優秀賞を受賞！
令和5年3月30日
石巻農業改良普及センター



令和4年度農山漁村女性活躍表彰の地域子育て支援部門で、東松島市の石森さと子氏が優秀賞を受賞し、3月10日（農山漁村女性の日）に東京で開催された表彰式で表彰状を授与されました。

この賞は、農山漁村男女共同参画推進協議会が主催し、農林水産業及び農山漁村の活性化や農林水産業経営、政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入、地域の子育て支援など女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰するものです。今回、全国から39事例の応募があり、宮城県での受賞は2事例目となります。

石森氏は、子供の偏食をきっかけに食に興味を持ち、JA いしのまき女性部活動を通して、東松島の農産物を題材に、小中学校での食農教育を東松島市内に普及・定着させたこと、東松島市の食のイベント「食ベメッセ」において、防災レシピの紹介やフードドライブ等に取り組み、多世代を対象とした子育て支援を推進したこと等、農業者の視点から展開した食農教育の功績が認められました。

渥美東松島市長とJA いしのまき松川組合長を表敬訪問。「農村の特色を生かした子育て支援の実践や様々な人との交流を通し、食の大切さを幅広い世代に伝える取組について、今後も期待したい」とのお言葉をいただきました。

普及センターでは引き続き、女性農業者の活動を支援してまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○「女性農業者ステップアップ講座」を開催しました
令和5年3月10日
巨理農業改良普及センター



令和5年2月16日に名取市の「農家食堂 神明そば 慶」を会場に、当普及センター管内で6次産業化に取り組む若手女性農業者等、12人を集めて、女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、打って、まると そばセミナー」を開催しました。

女性農業者は、地域農業の発展において、重要な役割を担っており、近年では加工場の整備や農産加工品のネット販売など、新たに6次産業化に取り組む若手女性農業者が増えてきています。このような中、名取市内で農産物の生産から直売、農家食堂の運営など経営の一部門を主体的に担って実践的に活動している、株式会社今慶農産の今野律子氏から6次産業化への取組について、事例紹介をしていただきました。また、今回のセミナーは、「そば」をテーマに、栽培や歴史、栄養成分、そば粉の利活用について学び、さらに農家食堂の料理長からの直接指導の下、そば打ちを体験する内容で、女性農業者らが和気藹々とした雰囲気の中で、会場内で情報交換する姿が見られました。

普及センターでは、今後も女性農業者が自信を持って経営や組織活動に参画するための支援を行ってまいります。

○「令和4年度登米市農村教育青年会議」が開催されました
令和5年3月10日
登米農業改良普及センター



令和5年2月19日(日)、登米市4Hクラブ主催の農村教育青年会議が宝江ふれあいセンターで開催され、クラブ員5人が参加しました。

この会議は、登米市の中核的担い手となる青年農業者が、4Hクラブ活動を通じて得た成果を互いに発表、情報交換することで、直面する課題の解決方法を探りながら、農業と農村の発展に資することを目的として毎年開催されています。

当日は、プロジェクト発表の部1人、意見発表の部1人、プレゼンテーション・ディスカッションの部3人が発表しました。それぞれの取り組みや課題について、様々な意見交換や情報提供が行われ課題解決に向けた活発なやり取りが見られました。

普及センターでは、若手農業者の皆さんの目標や想いが実現できるよう、今後も支援していきます。

○女性農業者研修会を開催しました

令和5年3月13日

気仙沼農業改良普及センター



農業と地域の活性化における女性の役割は重要性を増しており、女性農業者の活躍が期待されています。そこで、気仙沼地域内外で活躍している女性起業者の取組を学ぶとともに、女性農業者のネットワークづくりを目的とした研修会を令和5年2月27日に開催しました。

研修会では、震災後、亘理町で株式会社 WATALIS を設立し、地元の女性とともに、着物のアップサイクルによる伝統文化の伝承と発信に取り組む引地恵さんから「女性の起業、子育てとの両立と地域振興」をテーマに御講演いただきました。また、事例紹介として、合同会社でんでんむしカンパニー(南三陸町)の中村未来さんより、「藍の生産、藍染めと農家民泊の取り組み」をご紹介いただきました。

意見交換では、参加者から「ちょっとした夢」をお話いただき、参加した女性農業者間の交流を図ることができました。

○農事組合法人さくらファームの設立総会が開催されました

令和5年3月13日

大河原農業改良普及センター

角田市の高田萱場地区では高齢化による耕作者の減少に危機感を覚え、若い世代が参入しやすいよう担い手法人の設立に向け、10名の有志農家が話し合いを進めてきました。

当地区は、これまで組織的な活動事例がほとんど無く、初めてとなる共同作業の話し合いに戸惑いも



見られ、なかなか合意に至りませんでした。

そこで、県事業である「地域を守る、集落営農モデル支援事業」を活用し、外部のコーディネーターによる話し合いを進め、更に弁護士等の専門家も入り、定款や各規約等、法人化に必要な組織内の約束事を細かな部分まで明文化しながら話し合いを重ねました。その結果、法人を設立することで参加者の合意が形成され、令和5年3月7日に設立総会が開催されました(登記は令和5年3月13日予定)。

同地区で実施される農地整備事業のスケジュールの関係で、法人としての営農は令和6年からになる見込みです。

今後地区の中心となる担い手として活躍できるよう、関係機関と連携しながら普及センターも支援を行っていきます。

○大崎4Hクラブ員が表敬訪問を行いました

令和5年3月14日

大崎農業改良普及センター



令和5年2月2日に開催された令和4年度宮城県農村教育会議のプロジェクト発表の部、青年農

業者の主張の両部門で最優秀賞を受賞した大崎 4H クラブ員が、令和 5 年 3 月 1 日に受賞報告のため大崎市長と宮城県北部地方振興事務局長を表敬訪問しました。受賞した 2 人は、それぞれの発表内容を説明するとともに、今年秋に開催される東北大会への意気込みを語りました。

普及センターでは、今後も青年農業者の活動支援に取り組んでまいります。



○農業女子会～夢を語り合ってみませんか？～を開催しました！

令和5年3月15日

登米農業改良普及センター



次代を担う若手女性農業者間の情報交流ネットワークを構築することを目的に、令和 5 年 3 月 9 日に「農業女子会～夢を語り合ってみませんか？～」を開催し、管内女性農業者 9 人が参加しました。

第一部の講演会では、カフェ「circulo(シルクロ)」店主で有限会社三塚牧場社員の三塚香子氏を講師に迎え、「めぐる、ひらく、わかちあう、ひろがる農業」と題して、登米への移住、就農、カフェ開業に至るまでの歩みを講演していただきました。

第二部では、特定非営利活動法人ウィメンズアイの栗林美知子氏を講師に迎え、「偶然の出来事をうまく活用しよう！」をテーマにワークショップを行いました。このワークショップは、日常に起きている出来事をチャンスとして捉えることができるよう、自分なりの考えを整理する時間となりました。参加者からは、「新しい発見ができた」、「視野が広がった」などの感想が聞かれました。

最後に情報交換会を行い、参加者の就農のきっかけなどを語り合いました。日々の関わりではなかなか話さないような深い部分まで話ができ、新たな一面を発見するなど賑やかな雰囲気での研修会となりました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

○令和4年度美里4Hクラブ 第2回先進地視察研修及び研修会が開催されました

令和5年3月15日

美里農業改良普及センター

美里 4 H クラブは、美里農業改良普及センター管内の若手農業者から構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に様々な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、クラブ員の栽培及び経営管理能力向上等を目指すことを目的とした先進地視察研修と有機物施用研修会を 2 月 8 日（水）に開催しました。



先進地視察研修では、登米市で周年就労体制の確立と収益性の高い作付け体系を目指して、水稲と露地野菜（キャベツ、ちぢみほうれんそう、えだまめ等）を栽培している株式会社櫻井農場を訪問し、櫻井利光代表取締役との意見交換を実施しました。

研修会では、宮城県農業・園芸総合研究所 園芸環境部 土壌環境チーム 瀧典明 主任研究員を講師として、「土壌への有機物施用の効果（堆肥や緑肥の活用）」についてをテーマに御講義いただきました。

株式会社櫻井農場での先進地視察研修では排水対策や雇用、今後の農業のあり方などについて活発な意見交換を行いました。研修会では、土壌分析結果の活用方法や堆肥の効果的な施用方法を学び、緑肥作物品種の選定等について積極的に質問するなど、充実した研修となりました。

普及センターでは、今後も若手農業者の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。

○令和4年度第2回 美里地区農業士会研修会を開催しました

令和5年3月15日

美里農業改良普及センター





宮城県では、優れた農業経営を実践し、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を「農業士」として認定しています。美里普及センター管内の農業士で組織される美里地区農業士会では、農業後継者の育成指導や地域農業振興に係る活動を行っています。

今回、人材の育成及び地域農業の振興の参考とするため、最先端の施設園芸の栽培技術について理解を深めるとともに、東北・北海道地域の農業士の取り組みについての情報の共有と農業士としての資質向上を目的に、令和5年2月21日（火）に研修会を開催しました。

前半の現地視察研修では、国内最大級のレタスの栽培施設である株式会社舞台ファームの美里グリーンベースを視察しました。一般的な栽培方法とは異なる最先端技術を目の当たりにして、参加者は、自動化されたシステムに興味津々の様子でした。質疑応答では、説明いただいた伊藤専務取締役は、雇用や廃棄する培地の活用方法などについて質問しており、関心の高さが窺え、有意義な研修となりました。

後半は、宮城県農業士会 公平伸行会長から「令和4年度東北・北海道地域農業士研究会及び令和4年度宮城県農業士国内先進地農業視察研修会」の参加報告、宮城県農政部みやぎ米推進課環境対策保全班後藤領太技師から「肥料価格高騰対策事業について」をテーマにWebで講演いただき、今後の活動や農業経営の参考となりました。

今後も美里地区農業士会では、農業後継者の育成指導や地域農業振興、会員同士の交流会や技術研鑽に向けた活動を実施していきます。

○令和4年度第2回女性農業者活躍支援研修会を開催しました

令和5年3月16日

仙台農業改良普及センター



令和5年2月13日に宮城県仙台合同庁舎会議室において、次世代の女性農業者の農業経営への参画や地域とのつながりを深めるとともに、女性農業者間のネットワークの構築に向け、第2回女性農業者活躍支援研修会を開催しました。

研修会では、先輩女性農業者の農事組合法人仙台イーストカントリー佐々木こづ恵理事が講師となり、「自家農産物を利用した手作り味噌加工」を実習しました。

午後には、一般社団法人シェアリングエコノミー協会石山アンジュ代表理事による「シェアリングエコノミーを通じたライフスタイル」～農村社会における可能性について～と題した講演を受講しました。

今回の研修会を通じ、参加者の次世代女性農業者の皆様は、佐々木こづ恵理事の活躍を女性農業者のロールモデルとして、さらに講演を通じてこれから目指す方向性が明らかになったようです。

今後も普及センターでは、引き続き次世代の女性農業者の支援を続けてまいります。

○令和5年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました

令和5年3月22日

栗原農業改良普及センター



令和5年3月16日（木）に、県栗原合同庁舎会議室で、令和5年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催され、30人が参加しました。

今回の総会では、令和4年度の事業を振り返り、令和5年度の活動に向けて計画を確認しました。通常総会後の研修会では、宮城県公立学校教員等を定年退職し、現在は地元の大和町で多数の団体の役職についている高橋榮次氏に「生活の知恵をお持ちの皆さん『今こそあなたの出番』」と題して御講演をいただきました。人と地域のつながり、命の大切さ等について、歌を交えながらユーモラスにお話していただき、会場の笑い声が絶えない研修会となりました。

同協議会の通常総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から書面決議での開催が続いており、3年ぶりに対面での開催となり、久しぶりに集う仲間たちとの会話に花を咲かせる様子が見られました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動支援を行っています。

○「第61回全国青年農業者会議」が開催されました

令和5年3月27日

登米農業改良普及センター



令和5年3月2日～3日に、東京都江戸川区総合文化センターにおいて第61回全国青年農業者会議(主催：全国農業青年クラブ連絡協議会)が開催されました。

本会議は全国から青年農業者が集い、技術交換・交流を通して経営のレベルアップを図るもので、青年農業者や関係者300人以上が参加して盛大に開催されました。当日は、クラブ活動、農業経営、農家生活、農村環境、ボランティア活動などの体験を通じて日頃考えていることを発表する意見発表が行われ、全国各地域ブロックから選ばれた代表8人の発表が行われました。

登米市4Hクラブの熊谷利輝さんは、東北ブロック代表として、「私を成長させるもの」と題し、自身が成長するきっかけとなった出来事について発表しましたが、惜しくも受賞とはなりません。熊谷さんは、発表前に登米地域の先輩農業者や、職場の上司から発表にあたってのアドバイスや激励をいただいております。4Hクラブに加入したことで素晴らしい経験を積むことが出来たと大会後に話していました。

当普及センターでは、今後も熊谷さんをはじめとする農村青少年の活動を支援していきます。

○気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会研修会が開催されました

令和5年3月29日

気仙沼農業改良普及センター



令和5年3月8日、「気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会研修会」が開催されました。研修会では、仙台市若林区で一年を通してイチゴなどの果物狩りを体験できる「JRフルーツパーク仙台あらはま」を視察するとともに宮城県農業・園芸総合研究所主催の「水田

活用による露地野菜生産振興のための排水対策実証研修会」に参加しました。

JRフルーツパーク仙台あらはまでは、菊地秀喜専門監からブドウ、ナシ、リンゴ、施設イチゴ等について栽培概要や管理方法、土づくりや施肥方法等、実践的な話を中心に分かりやすく説明していただきました。

水田活用による露地野菜生産振興のための排水対策実証研修会は、果樹園での排水対策に取り組んでいる4Hクラブ員も参加しており、排水対策の重要性や基本技術の他、様々な作業機等について写真や動画を使い紹介されていました。

どちらも、参加したクラブ員がすぐに実践できる内容が含まれ、これからの農業経営に役立つ研修会となりました。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○令和5年度産麦の現地検討会が開催されました 令和5年3月8日

仙台農業改良普及センター



令和5年2月24日にJA新みやぎあさひな統括営農センター主催の「令和5年産麦の現地検討会」が開催され、麦類生産を行う8経営体に参加し、情報交換等が行われました。

当普及センターからは、麦の生育状況や追肥等について説明を行い、その後2か所のほ場(大麦1か所、小麦1か所)を巡回して、麦の幼穂長の確認や生育量等について現地検討をしました。現地検討を通して、自分のほ場の生育状況と比較することができ、追肥や麦踏み等の時期について今後の計画が立てられたようです。

普及センターでは、今後もJAと連携して麦類の生産性向上を支援していきます。

○水稻乾田直はに関する実演会を開催しました 令和5年3月22日

気仙沼農業改良普及センター

管内での水稻乾田直は栽培の普及に向け、株式会社スガノ農機、株式会社五十嵐商会と共催で3月15日に気仙沼市本吉町で実演会を開催し、生産者27名が参加しました。

スガノ農機(株)、(株)五十嵐商会を講師に迎え作業機の説明を受けるとともに、スガノ農機(株)のプラウマイスターによる作業を見学しました。



50a ほ場で実演したグレーンドリルによる播種とケンブリッジローラーによる鎮圧は、いずれも、30分以内で完了し、参加者からは作業性の良さに驚きの声が上がりました。

実演機以外にも、レーザーレベラーやパーチカルハロー、グレーンドリル施肥ユニットなど関連機械の展示もあり、作業体系の理解が深まりました。

今後は、生育に合わせた防除・追肥作業などの研修会も計画しますので、ぜひ御参加ください。

④園芸産地の育成・強化支援

○かぼちゃの栽培講習会が開催されました
令和5年3月1日
栗原農業改良普及センター



令和5年2月21日、JA新みやぎ主催のトンネルかぼちゃ・普通栽培かぼちゃ栽培講習会が、渡辺採種場瀬峰研究農場、JA新みやぎ志波姫支店大会議室の2会場で開催され、管内のかぼちゃ生産者23名、種苗会社、普及センターの担当者が出席しました。

種苗会社からは、かぼちゃの栽培管理のポイントについて説明がありました。普及センターからは、主要病害虫の特徴と対策について説明しました。また、防除に使用できる薬剤の例示や、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、RACコード(農薬の作用機構分類)を参考にしたローテーション散布を呼びかけました。

参加者は、かぼちゃの栽培管理や病害虫防除についての知識を深めたようでした。普及センターでは、管内のかぼちゃの安定生産に向けて、今後も継続して支援していきます。

○ズッキーニ栽培講習会が開催されました
令和5年3月2日
栗原農業改良普及センター



令和5年2月16日(木)、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会「ズッキーニ栽培講習会」がJA新みやぎ志波姫支店で開催されました。部会員24名のほか、JA新みやぎ、種苗メーカー2社、普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、種苗メーカーから定植時の温度管理や肥培管理、葉かきの方法など、高品質なズッキーニを栽培するためのポイントについて説明がありました。

次に普及センターから、農薬だけに頼らない総合的な病害虫管理方法や前年で連作障害が数件確認されたことから土壌病害虫の特徴と対策などについて解説しました。また、今年度普及センターが実証を行ったズッキーニの立体栽培の成果を周知しました。参加者からは熱心な質問が飛び交い、次作に向けて栽培管理技術や病害虫防除に関する知識を深めたようでした。

○半促成トマト部会現地検討会が開催されました
令和5年3月8日
大崎農業改良普及センター



令和5年2月21日にJA古川主催により、半促成トマトの現地検討会が開催されました。7人の生産者が参加し、種苗会社の担当者とともに各生産者のほ場を巡回し、今後の栽培管理について検討しました。今期のトマトは、1段目の実つきが良く、病害虫の発生はほとんど見られませんでした。

春に向けて少しずつ気温が上がり、病害虫の活動が活発になるので、普及センターからは、アザミウマやハダニなどに高い防除効果を示す農薬の情報を配布し、引き続き防除を徹底して行うよう指導しました。

当普及センターは、今後も半促成トマトの巡回を行い、栽培管理について支援していきます。

○野菜づくり講習会が開催されました
令和5年3月13日
仙台農業改良普及センター



令和5年3月3日、富谷市富谷中央公民館を会場に、富谷市主催で「野菜づくり講習会」が開催されました。本講習会は、富谷市の市民農園利用者を対象に行われ、11名が参加しました。

当普及センター職員が講師となり、「野菜の育て方について」と題し、土づくりや各野菜の栽培方法など、野菜栽培の基礎的な内容を中心に説明を行いました。本講習会は、2年ぶりの開催となったこともあり、講習中はメモを取りながら熱心に耳を傾ける受講者の姿が多く見られました。講習会後も多くの質問が出され、受講者は春からの植付けに向けて意欲が高まった様子でした。

普及センターでは、今後も講習会での指導等を含め、県の園芸振興に向けて活動してまいります。

○登米ぼてと組合の種芋消毒が行われました！
令和5年3月13日
登米農業改良普及センター



令和5年3月6日に、JAみやぎ登米南部園芸センターで、登米ぼてと組合の組合員合同で種芋消毒が行われました。

消毒作業は、箱で届いた種芋をネットやコンテナに入れるなどの重労働かつ時間がかかる工程もありますが、組合員は全員分の種芋の消毒を協力しながら行いました。

消毒された種芋はその後、組合員それぞれが持ち帰り、適切な温度管理のもと浴光育芽を行って3月末～4月初め頃に定植されます。

登米ぼてと組合には今年もまた新たなメンバーが加わり、登米地域の加工用ばれいしょ作付面積も増加しています。普及センターでは、組合の活動をはじめ、ばれいしょ生産者のサポートに力を入れて取り組んでまいります。

○JA 仙南いちご部会の目揃い会が開催されました
令和5年3月13日
大河原農業改良普及センター



令和5年2月28日(火)、JAみやぎ仙南あぐりハウス蔵王にて、いちご出荷目揃い会が開催されました。蔵王いちご部会と村田いちご部会15名のほか、JAみやぎ仙南蔵王支所、仙台あおば青果、普及センターの担当者が出席しました。

仙台あおば青果から販売情勢や3月から新たに導入されるコンテナ出荷の方法について説明があり、参加者の方々は熱心に耳を傾け、質問をする様子も見受けられました。普及センターでは今後もいちごの安定栽培に向けた支援を行ってまいります。

○令和4年度くりはらスプレーマム研究会通常総会開催されました！
令和5年3月14日
栗原農業改良普及センター



令和5年3月8日、県栗原合同庁舎で、設立27年目を迎えるくはらスプレーナム研究会の通常総会が開催されました。開会にあたり、会長からは、「新しい技術情報の収集や栽培技術の向上及び、相互交流を図るため、今年は先進地視察など行事の充実を図っていきたい。」との挨拶がありました。また、普及センターからは、「生産者の自主的な運営により行われてきた会で、代替わりもあり、会の方々がしっかりした経営を行ってきた証。資材高騰など経営を取り巻く環境は厳しいが、市場ニーズにマッチした花づくりを続けてほしい。」との祝辞を行いました。総会では、全ての議案が承認されました。

総会終了後、研修が行われ、キク種苗会社2社から新品種紹介があり、栽培特性について積極的に質問する姿や、手に取って新品種のフォーメーション（花型）などを確認する様子が見られました。

今後とも、普及センターでは、地域の花き生産振興を支援してまいります。

○土づくり研修会を開催しました
 令和5年3月15日
 大崎農業改良普及センター



令和5年3月1日に直売所向けの土づくり研修会が開催され、11人の生産者が参加しました。普及センターからは、化学肥料を削減するための取組として、主に土壌診断と堆肥の利用について説明しました。堆肥の供給元として、供給先が減っているため処理に困っている管内の畜産経営体を紹介したところ、5人の生産者から利用したいとの要望がありました。研修会の終了後、早速土壌診断の依頼があり、堆肥に

関しても実際に畜産経営体から供給される事例が生まれました。

当普及センターは、今後も直売所の支援を行ってまいります。

○きゅうりの環境制御技術及び天敵製剤勉強会を行いました
 令和5年3月20日
 登米農業改良普及センター



令和5年3月14日に、JAみやぎ登米胡瓜部会の環境制御技術に取り組む生産者8名が参加する勉強会が開かれました。

勉強会では、スマートフォンと通信して記録されたデータを確認できる温度計を用いて、ハウス内の環境ムラを把握する方法を確認しました。また、普及センターから天敵製剤の説明を行ったほか、参加者同士の情報交換も盛んに行われ、各経営体で問題になっている病害虫や管理方法などの話題について、互いにアドバイスを行っていました。

この勉強会で学んだ技術や情報を生かしながら、促成きゅうりは3月半ばから6月末まで収穫が行われます。普及センターでは、今後もきゅうりの産地発展に向けた技術や取組みの情報提供など、サポートを行ってまいります。

○JA みやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました
 令和5年3月23日
 登米農業改良普及センター



令和5年3月16日、登米市豊里町のほ場2でJAみやぎ登米そらまめ部会の現地検討会が開催されました。部会では毎年この時期に、昨年秋に定植され越冬したそらまめのほ場で現地検討会を開催し、春を迎えて生育を再開するそらまめの状況と今後の管理について確認を行っています。

当日、普及センターからは気象経過や病害虫防除等について、JAの営農指導員からは今後の整枝管理

等について説明しました。また、それぞれのほ場の管理状況を確認し、生産者同士で管理作業の工夫など情報交換が行われました。

○令和5年2月に生産者と実需者の連携強化のための花き産地交流会を開催しました
令和5年3月27日
亘理農業改良普及センター



花きの分野では、産地名を表示した販売がほとんど行われていないため、消費者が購入する時に産地を認識しづらい状況にあります。こうした中、名取市花卉生産組合では、実需者の協力を得て名取のカーネーションの産地表示販売の実証に取り組んでおり、取組の定着と発展が期待されます。

生産者と生花店の間で顔が見える関係の構築が取組発展のカギであることから、令和5年2月15日に亘理農業改良普及センター主催で、生産者と実需者の連携強化のための花き産地交流会を開催し、生花店や名取市花卉生産組合員、名取市関係機関の計26人が出席しました。

第1部は花き類4品目（カーネーション、ばら、ストレリチア、ラナンキュラス）の生産ほ場を見学しました。生産者から各品目の特徴や栽培管理の要点等の説明があり、生花店等の参加者は、日頃見ることがない切り花生産ほ場に興味深く見入っていました。

第2部は集会所に移動し、これまで取り組んだ産地表示販売の手法や内容を振り返りながら、反省点や今後の抱負等について意見交換を行いました。生花店からはほ場見学への感謝や今後の継続について数多くの意見が出され、名取市から「市役所正面玄関で同時期に行った名取市産切り花の展示が非常に好評であった」と、生産者自らの手による産地PRの成果報告がありました。

第1部、第2部を通して、参加者の間で、活発な意見や情報交換が行われ、大変有意義な交流会になりました。

花き生産者、生花店、関係機関が連携して、地域内で特産品を盛り上げようとする機運が高まっています。普及センターでは、地域の花き生産振興を支援してまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会トルコギキョウ専門部の全体会及び実績検討会が開催されました
令和5年3月28日
登米農業改良普及センター



令和5年3月23日に登米市迫町の大瀬研修室で、JAみやぎ登米花卉部会トルコギキョウ専門部の全体会及び実績検討会が開催され、専門部員、市場担当者、関係機関等13名が参加しました。

令和4年産の販売実績については、燃料費高騰による作型の変更や昨年6月の高温、7月の大雨の影響等により、出荷本数が前年より約1割減少したことが報告されました。また、仙台、石巻、東京の市場関係者から、昨年は大雨等の影響で入荷が減少した一方で業務需要の回復やホームユース需要の堅調さから全体的な単価の上昇につながったこと、令和5年産に向けて品質の向上と生産量の維持、地元産地への期待など助言をいただきました。また、令和5年度事業計画案では、例年どおり事業を行うとともに、一部品種の出荷規格を見直すことなどが承認されました。普及センターからは病害防除や農作業安全について情報提供を行いました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた高品質生産への支援を行ってまいります。

○ばれいしょほ場排水性改善施工実演会を開催しました
令和5年3月28日
美里農業改良普及センター





令和5年3月15日、遠田郡美里町平針地区のばれいしょほ場で、穿孔暗渠機(カットドレーン)の実演会を開催しました。

美里町は、カルビーポテト(株)と生産者が連携し、県内有数の加工業務用ばれいしょの産地となっています。水田による高収益作物の生産振興を進めていますが、近年の大雨の影響や排水性の問題から湿害により生産量や品質が低下するといった課題があります。

そこで、農業・園芸総合研究所とヤンマーアグリジャパン(株)の協力のもと、排水性改善に関する情報の周知を行うために、補助暗渠の施工を実演しました。

メーカーからは、カットドレーンの作業の特徴などの説明があり、施工の様子を間近で見ながら、活発な意見交換がされました。また、参加者からは、ばれいしょ栽培の課題である湿害リスクの解決につながり、生産の安定化が期待できるなどの声が出ていました。

普及センターでは、今後、補助暗渠を施工した区と対象区で生育調査を行うなど、水田における高収益作物の導入、拡大に向けた取り組みを支援していきます。

○令和4年度登米地域園芸特産振興研修会を開催しました
令和5年3月31日
登米農業改良普及センター



令和5年3月15日(水)に、生産者、関係機関等20名程の参加のもと登米合同庁舎において「令和4年度登米地域園芸特産振興研修会」を開催しました。

研修会では、近年の肥料価格高騰を受け、「園芸作物の土壌分析・たい肥を活用した肥料費節減について」と題し、農業・園芸総合研究所園芸環境部土壌環境チームの瀧上席主任研究員を講師に研修しました。講師からは、肥料費節減のためには、土壌分析値を活用して必要な肥料成分を把握し、過剰投入を避けることが必要であることや、正確な土壌分析を行うための土壌採取の仕方、たい肥混合肥料を使用した試

験結果等についても説明がありました。
 今回の研修会は、近年の肥料価格高騰の状況下で、施肥の基本を見直すよい機会となりました。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆種子の生産物審査が終了しました
令和5年3月16日
栗原農業改良普及センター



栗原管内には大豆の採種ほ場があり、宮城県の優良品種である「タンレイ」「タチナガハ」の種子生産が行われています。

普及センターでは、種子生産者へ栽培指導を行うとともに、県の「主要農作物種子条例」に基づき、開花期及び成熟期の「ほ場審査」及び収穫後の「生産物審査」を行い、病害粒や異品種、雑草種子等の混入がないか、また、発芽率に問題がないかを審査しています。

本年は、7月中旬の大雨被害を受け、管内採種ほ場の一部では湿害による生育不良が見られました。一方、その後の適切な栽培管理により生育は回復し、いずれの品種も、契約数量分を収穫することができ、また、適期の病虫害防除や種子の入念な乾燥調製により、生産物審査では契約分について全量が合格となりました。

普及センターでは、大豆種子の安定供給を行うために、引き続き種子生産者へ栽培管理や種子の乾燥調製などの指導を行っていきます。

○モミタス実演会に参加しました
令和5年3月23日
石巻農業改良普及センター





令和5年3月16日に、東松島市岩崎地区において大塩水利組合主催のモミタス実演会が開催され、地区内の15名の生産者らが参加しました。

モミタスは、宮城県古川農業試験場で平成16年に開発された暗渠の疎水材であるもみ殻を簡易に補充する装置です。近年の水田の畑地利用の進展により疎水材のもみ殻の腐食が急速に進み、水田の陥没や排水機能の低下を引き起こしています。本装置は、安価な製作費用（約65万円、開発当時は16万円）と4人程度の人員で簡易に暗渠施設の維持補修をすることができます。実演会では、古川農業試験場の職員が、モミタスや施工手順の説明を行いました。参加した生産者らは、作業や施工後の土壌断面を興味深く見入っていました。当普及センターでもモミタスによる施工を初めてみる職員が多く、暗渠管の位置の特定方法や装置の強度等について質問をおこなっていました。

現在、水田転作により畑作物や露地園芸作物の作付けが拡大しており、水田における排水機能の向上は、ますます重要になっています。普及センターでは、今後もこうした活動を支援していきます。

○涌谷町で大豆栽培総合実績検討会が開催されました

令和5年3月28日

美里農業改良普及センター



涌谷町は大豆栽培が盛んな地域で、町内産の大豆は卸からも高い評価を受けています。

令和4年産は個人10名を含む22経営体、播種面積は約420haとなりましたが、7月15日の記録的豪雨により、麦あとの大豆を中心に大きな被害を受け、最終的には約340haに減少しました。

そのような中、涌谷町米づくり委員会では、「災害をばねに、また大豆栽培に取り組んでほしい」という思いを込め、大豆栽培総合実績検討会を開催しました。

最初にJA新みやぎみどりの統括営農センターから大豆の情勢、次に涌谷営農センターから収量と品

質について説明があり、全体の単収は約130kg/10aであったが、水害被害が軽微だったところでは200kg/10aを超えたほ場もあったこと、上位等級比率は90%以上と、品質は良好であった、という話がありました。

普及センターからは、大雨の被害を受けた大豆の様子や害虫の被害を受けた株、発生の多かった被害粒等を写真を中心に紹介し、5年産栽培に向けた改善点を説明しました。湿害回避のための畦立播種栽培や、主茎の伸長を抑え倒伏防止につながる摘芯栽培の他、有機物施用の重要性にも触れ、「土壌物理性の改善は、窒素の供給に重要な役割を持つ根粒菌にも良い影響を与える。肥料が高騰している今、堆肥を積極的に活用してほしい」と呼びかけました。

その他、肥料メーカーからは「減プラスチックコーティング肥料」や大豆に適した肥料について紹介がありました。

普及センターでは、市町村及びJAと一体となり、現地検討会やほ場巡回により、大豆の収量や品質向上に向けた活動を継続していきます。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○麦の現地検討会が石巻各地で開催されました

令和5年3月13日

石巻農業改良普及センター



令和5年3月1～10日にかけて、管内5地区（桃生、河南、矢本、河北、石巻）においてJAいしのまき主催の麦現地検討会が開催されました。今回は、麦の生育ステージや栄養状態、雑草の発生状況を観察しながら、主に幼穂形成期の追肥時期について検討を行いました。幼穂長の観察では、大麦で1.0～2.0mm、小麦で1.0mm未満というところが多く、大麦では3月上旬から中旬が幼穂形成期の追肥時期のピークに達すると予想されました。麦の追肥は、尿素や硫酸などの単肥や葉色回復のためのつなぎ肥から減数分裂期までの追肥も兼ねた一発型肥料などさまざまな方法で行われています。参加者は自身のほ場の生育状況と今後の天気予報を確認しながら、これからの栽培管理について検討していました。

石巻管内では、令和5年産で大麦が約780ha、小麦が約190ha作付けされています。昨今の国際情勢も踏まえ、国産麦の需要が高まっています。当普及センターでは、今後も高品質な麦の安定生産に向けて栽培支援を行っていきます。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「令和4年度石巻・登米地域鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました 令和5年3月6日 石巻農業改良普及センター



管内では、ニホンジカによる農林業被害の低減に向けて様々な取組が行われています。そのような中、近年生息域が拡大しているイノシシが管内でも確認されるようになってきています。

今後、ニホンジカに加えてイノシシへの対応について考える契機とするため、2月16日に石巻合同庁舎において「石巻・登米地域鳥獣被害防止対策研修会」を開催し、猟友会や農業関係者等約30人が参加しました。

研修会では、東北野生動物保護管理センターの主任研究員関健太郎氏から「複数獣種に対する総合的な被害防止対策について」と題して講演がありました。イノシシ等の生態や、被害対策として捕獲時のICT機器の活用、ニホンジカ用に設置した侵入防止柵のイノシシ対策のための複合柵化等について、関氏の経験を交えて具体的にお話いただきました。

今後も、関係機関と連携して地域の鳥獣被害防止対策を継続的に支援してまいります。

○パプリカの葉で陸上飼育したウニの試食会が行われました！ 令和5年3月7日 石巻農業改良普及センター



石巻市の令和4年度石巻市再生可能エネルギーを活用した低コスト陸上養殖実証調査において、宮城大学で実施しているウニ陸上養殖試験について、パプリカの葉で陸上飼育したウニの試食会が開催されました。

石巻の浜ではウニが大量発生し磯焼けの原因となる事例が起き、ウニの駆除が行われています。駆除したウニと地域資源を活用して陸上飼育できないかと、農業と水産の関係機関で打ち合わせが行われてきました。そこで、普及センターから管内大規模施設で栽培されているパプリカの葉を餌として活用できないかと提案したことから今回の飼育試験が始まりました。パプリカ栽培では、芽かきが行われ、葉は廃棄され、堆肥等に活用されています。

普及センターでは本試験に対して、パプリカ栽培法人の(株)デ・リーフデ北上及び大川との調整や、試験に使うパプリカの葉の収集についての支援を行いました。

宮城大学の報告によると、身入りの少ない駆除ウニにパプリカの葉を2か月程度与えると、出荷目安となる身入りとなったそうです。

試食会では、(株)デ・リーフデ大川のカフェ部門「リーフデ・テラス」でウニご飯とウニをしょうゆやバターであえたウニパスタが提供されました。参加者からは通常販売されるウニと比較して味はそんな色ではないのではないかと意見も聞かれました。

今後、宮城大学では需要調査や、石巻市の民間業者と提携する形で実証栽培を目指す予定で地域資源が有効活用されるよう今後も普及センターで支援していきます。

○2023年伊達なわたりまるごとフェアが開催されました 令和5年3月8日 亶理農業改良普及センター



令和5年3月5日に、亶理町役場の駐車場を会場に「2023年伊達なわたりまるごとフェア」が開催されました。

このフェアは、地元住民の交流を深めるとともに、地場産品の販路拡大を支援するため開催されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度以降休止しており、今回は4年ぶりの開催

となりました。

久しぶりに開催されることもあり、住民からの関心も高く、実行委員会の公式発表では来場者数は約1万人となったとのことでした。開会式では、主催者や来賓が挨拶したのち餅まきが行われ、花火の打ち上げとともにフェアが開会されました。会場には、地元の農家レストラン、果樹農家及び農産物加工連絡協議会の方々が出店し、自らが生産した農産物や加工品を販売されました。

普及センターとしても、園芸が盛んな地域の農産物やその加工品をPRする機会であり、この取組を支援してまいります。

○大崎農業士会第2回研修会を開催しました 令和5年3月8日 大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

令和5年2月24日に、管内の農業士で組織する大崎農業士会が、今年度2回目となる研修会を開催しました。

大崎市では、平成29年に認定された世界農業遺産「大崎耕土」の豊かな自然環境を維持しながら将来にわたって持続可能な農業を地域に定着させるため、環境保全型農業を推進しています。大崎市産業部農林振興課の佐々木係長からその取組主体である「大崎市有機農業グリーン化推進協議会」の活動のうちアイガモロボやスマホ水管理システム、リモコン草刈機等の現地試験の概要についてお話を頂きました。

また、東北農政局宮城県拠点の鏡総括農政業務管理官から水田活用直接活用交付金に係る農地施策を中心に今後の国の農業施策のポイントについて情報提供を頂きました。

普及センターでは、今後もこのような研修会を企画し農業士の方々とともに若手農業者の育成や管内農業の発展のための活動を行ってまいります。

○やくらい土産センター・山の幸センター活性化 研修会(売り場環境改善編)を開催しました 令和5年3月20日 大崎農業改良普及センター



やくらい土産センター・山の幸センターは農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地域である加美町の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売り上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、接客力の向上や販売品目の改善に向けた支援を行っています。

令和5年3月7日には、これら支援の一環として売り場環境の改善に関する研修会を開催しました。講師には、農産物直売所の運営で優れた実績をあげているお茶の井ヶ田株式会社店舗開発部アグリエの森の石垣統括リーダーにお越しいただき、「お客様に楽しんで頂ける売り場づくりについて」と題した講演をいただきました。

講演では、客単価を上げるためにはどうすればいいのかや、お客様がお買い物をしやすいような商品配置の改善方法など、今後の売り場改善において大変参考となるお話を頂きました。また、講演の合間にワークショップが行われ、自らの直売所の良いところや売上向上のために今後取り組んでいくべきことなどが話し合わせられ、参加者から多くの意見が出されました。

普及センターでは、今後もやくらい土産センター・山の幸センターの活性化と直売所を拠点とした中山間地域振興に向けた支援を行ってまいります。

○加美町の青年農業者と町の特産品開発に向けた意見交換を行いました 令和5年3月20日 大崎農業改良普及センター



加美町では以前から地域おこし協力隊※を募集しており、これまで多くの隊員を受け入れています。任

期終了後は地域に定着し、それぞれの分野で活躍されています。このうちの5名が農業や地場産品を使った商品開発などによる加美町の活性化を目的とした組織「プラビラボ」を結成し活動しています。プラビとは加美の加（プラス +）と美（び）を意味しています。

普及センターでは、令和5年度から加美町でプロジェクト活動を展開する予定ですが、プラビラボと協力して加美町の特産品づくりや中山間地域の活性化に取り組むこととしています。そこで、プロジェクト活動の開始に先駆け、令和5年3月15日にメンバーと意見交換を行いました。

出席したメンバーからは地域特産品である小瀬菜大根を利用した加工品やさつまいもを使った菓子づくり、町内の醸造所とコラボした商品づくり、民泊や体験ツアーの実施、ドローンによる地域おこしなど短い時間でしたが多くのアイデアが出されました。

普及センターでは、これらの実現に向け、県の事業を活用しながらプラビラボのメンバーと協力し加美町の活性化に向けた活動を展開していきます。

※：地域おこし協力隊とは、都市地域から移住してきた人が地方自治体から役割を任せられ、地域づくりの担い手となる制度で、およそ3年の任期ののちは、受入自治体のサポートも得ながら、その地域への定住・定着を目指す取組です。

活動内容は、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、楽器の作成、地域住民の生活支援など多岐にわたっています。

○令和5年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会及び花寿司づくり講習会が開催されました
令和5年3月28日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年3月14日に、令和5年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会が開催されました。2年ぶりに会員が集まっての開催となり、令和4年度の活動内容を振り返るとともに、令和5年度の活動計画が協議されました。

総会終了後は地域食材を使用した料理講習会として、花寿司づくり講習会が行われました。「キッチンスペース夢の舎」の石田幸子シェフを講師に迎え、断面が桃や桜の花の模様となる花寿司の作り方を実習しました。参加者は講師からの指導のもとに、難しい工程に苦戦しながらも、楽しみながら料理を作り上げていました。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○志波姫環境保全米栽培講習会が開催されました
令和5年3月6日
栗原農業改良普及センター



令和5年2月24日（金）、JA新みやぎ志波姫有機米栽培協議会主催で、環境保全米栽培講習会が開催され、会員38名が参加しました。

当普及センターからは、令和4年産米の作柄概況と令和5年産米の栽培における留意点についての説明を行いました。令和4年産米は登熟期の日照不足により登熟歩合が低く、収量が例年よりやや低かった一方で、白未熟粒や胴割粒の発生が少なく、1等米比率は過去5か年で最も高くなったことなどを説明しました。また、令和5年産米の栽培に向けて、晩期栽培や直播栽培の拡大による作期分散への取組み推進や、肥培管理・水管理を行う際のポイントなどについて指導しました。

参加した生産者は、改めて令和4年産の水稻の作柄を振り返るとともに、令和5年産の環境保全米の栽培への意欲を高めていました。

○環境にやさしく省力的な稲作の実証試験検討会が開催されました
令和5年3月14日
大崎農業改良普及センター



加美町小野田にある「南鹿原グリーン協議会」と「上区・城内集落営農組合連絡協議会」では、みどりの食料システム戦略に基づき、環境にやさしく省力的な水稻栽培の実証に取り組んでいます。

令和5年3月1日に、両協議会の実証試験検討会が開催され、本年度実施した堆肥の施用による化学肥料の削減や、スマート農機の活用による省力化等の実証試験の調査結果について、普及センターから報告しました。それらの結果と来年度の実証試験の内容等について協議会メンバーで検討を行い、引き続き協力しながら事業を推進することを確認しました。

普及センターでは、来年度も両協議会の取組をサポートし、持続可能な農業生産の実現に向け支援していきます。

令和5年2月22日に集落営農の法人化に向けた現地視察研修を開催しました。令和元年東日本台風による被災からの復興の取組において、営農を組織化しさらに法人化を検討している丸森町竹谷地区をはじめとして、法人化を検討している3組織と2法人が参加し、農事組合法人館島田生産組合（角田市）と農事組合法人下名生ファーム（柴田町）にて視察研修を行いました。研修先の代表者から、法人化に至る経緯や地域農業の維持発展のための後継者確保と育成への取組みなどについてお話をいただきました。特に、正社員等の雇用拡大に向け、園芸品目を取り入れた経営の複合化の取組に対して積極的な質疑が行われました。普及センターでは被災農地の復興にとどまらず、法人化に向けた取組についても支援を行います。

③大規模自然災害等からの復旧・復興

○集落営農の法人化に向けた現地視察研修会の開催
令和5年3月6日
大河原農業改良普及センター



普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<巨理>
〒989-2301
巨理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

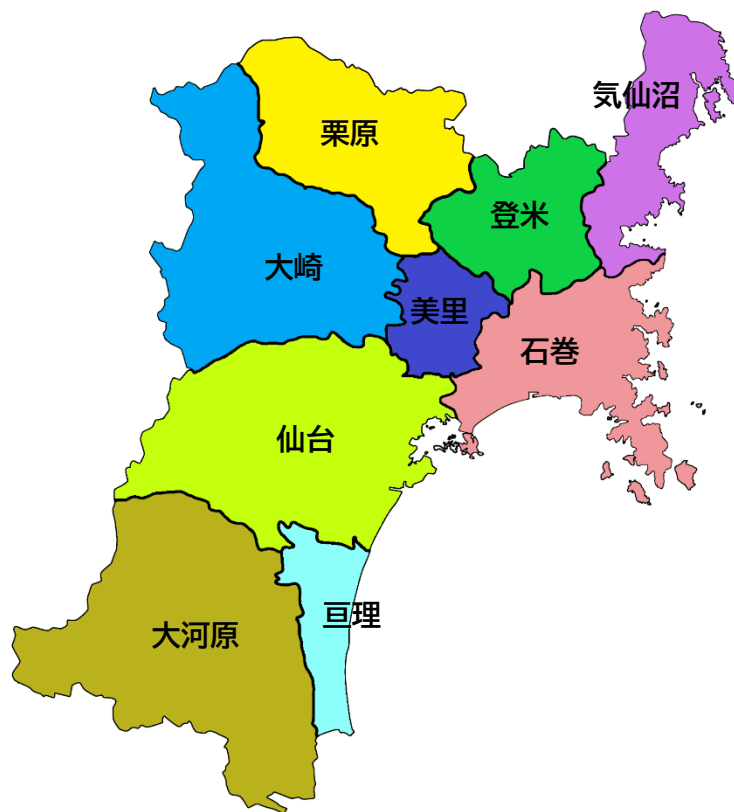
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.194

発行日:2023年4月10日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp